

リスボンの川崎理學士より

田中館新城兩博士と共に、日本の代表としてポ國リスボン市の國際地球學會へ列席中の川崎俊一技師より下のたよりがあつた。

八月末ベルリン發、ブラーグ、ブタペスト、ウキン、ベニス、フロレンス、ローマ、ゼノア、マルセイユ、マドリドを経て、リスボンへ参りました。新城先生と偶然同じ宿に泊りあはせ、好都合でした。會議は何の波瀾もなく、平凡にすんでゐます。但、明日は役員選舉で、内々運動が行はれてゐる様



ポルトガル國リスボン市ペドロ廣場の景

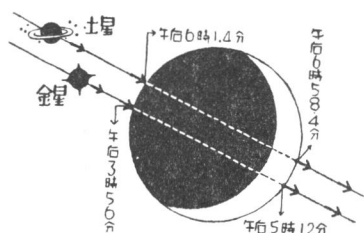
子です。明日の總會で、會議は實質的に終りますから、廿五日、新城先生と同船同室して渡英。更にベルリンへ歸りたいと思ひつてます。田中館先生はローマの言語學會へ行かれました。

九月 23 日

俊 一

地球——月——金星——土星

來る十二月20日の午後、地球と月と金星と土星と、此の四つの天體が一直線上にならぶ——從つて、地球から見てゐると、



金星が午後3時56分に月の後ろにかくれ、

〃 〃 5時12分に〃 〃 から再現、

土星が午後6時1分に月の後ろにかくれ、

〃 〃 6時58分に〃 〃 から再現する。

即ち、珍らしい遊星の掩蔽が同じ日に二つも見える。月は月齡2.5、金星の光度は-4.3、土星は0.9だから、位置さへ知れてゐれば、5センチ以上の望遠鏡で、晝間でも見える筈である。